

学校の概要 (平成15年4月現在)

三日月町立三日月中学校						
	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	2	1	0	4	12
生徒数	29	47	37	0	113	

研究の概要

1 研究主題

個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- 1・3年生数学(少人数指導：生徒の理解度に差が出やすい教科であるため)
- 2年生数学(T・T指導：生徒の理解度に差が出やすい教科であるため)
- 1・2年生英語(T・T指導：生徒の理解度に差が出やすい教科であるため)
- 3年生英語(少人数指導：生徒の理解度に差が出やすい教科であるため)

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 学力差が拡大しやすい教科において、個に応じたきめ細かな指導を推進することにより、基礎的・基本的内容の確実な定着を図る。</p> <p>仮説 ・生徒個々の特性や興味・関心に応じた、多様な学習活動を展開することにより、個性の伸長が図れるとともに、生徒の自己決定能力、自ら学ぶ力を育成できる。 ・少人数授業や同室複数指導の中での個に応じたきめ細かな指導により、わかる授業を展開し、基礎学力の定着を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法 学習指導面での工夫 ・数学において、基礎・基本の確実な習得を図るための教材を工夫する。 ・数学・英語において、個人カルテを作成し、個に応じた指導の充実を図る。 ・小集団編成については、学習内容も考慮し、年度途中に組みかえる。</p> <p>評価方法の工夫 ・各学期末に生徒や保護者から意見を聴取する。 ・他校の実施状況を調査し、本校の推進方向の改善資料とする。 ・単元ごとに評価規準の作成をすすめ、共通理解をし指導にあたる。 ・観点別学習状況の評価、評定の工夫改善を行う。</p>
----------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、指導方法、評価の工夫改善を研究する。</p> <p>研究の見通し ・学習目標を明確にし、評価規準の設定と評価規準に基づく評価を行うことで、生徒の学習する目的や努力の成果が分かり、学習意欲や基礎学力が向上する。 ・少人数授業やT・T指導を通して、学習指導の工夫・改善による、個に応じたきめ細かな指導と分かる授業を展開することにより、生徒の学習意欲が高まり、基礎的・基本的内容の定着を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法 ・研究のテーマ、方針、内容の確認と研究体制の確立 ・生徒の学力調査 ・各教科の単元ごとの評価規準の作成 ・各教科ごとの自己評価表、教師評価表の作成 ・各教科の絶対評価の評価方法の統一 ・各教科の個に応じた分かる授業の実施(少人数授業・T・T指導、選択教科) ・生徒、保護者へのアンケート実施</p>
----------------	--

平成
16
年度

テーマ

基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、考える力を身に付けさせるために、個に応じた指導のための指導方法・指導体制、評価の工夫改善、教材の工夫開発を研究する。

研究の見通し

- ・学習目標を明確にし、評価規準の設定と評価規準に基づく生徒の学力の評価を生かした指導を行うことで、生徒の学習する目的や努力の成果が分かり、学習意欲や基礎学力が向上する。
- ・少人数授業やT・T指導を通して、学習指導の工夫・改善、教材の工夫・改善による、個に応じたきめ細かな指導と分かる授業を展開することにより、生徒の学習意欲が高まり、基礎的・基本的内容の定着と自ら考える力の育成を図ることができる。

研究の内容・方法

- ・研究のテーマ、方針、内容の確認と研究体制の確立
- ・生徒の学力調査、前年度との比較検討
- ・各教科の単元ごとの評価規準の見直し
- ・各教科ごとの自己評価表、教師評価表の見直し
- ・各教科の絶対評価の評価方法の改善、評価と指導の一体化の工夫
- ・各教科の個に応じた分かる授業の実施（少人数授業・T・T指導）
- ・考える力を育てる教材の工夫開発

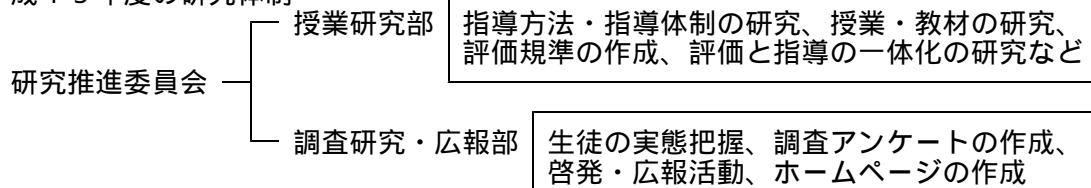
(3) 研究体制

「フロンティアスクール」推進委員会を組織し、研究責任者を校務分掌に位置づけて研究をすすめる。

全校の課題として位置づけ、研究責任者を中心に、全教職員で取り組む。

数学科と英語科を中心に、全教科で生徒の学力や学習状況を調査、把握し、個に応じた教材や指導方法の工夫改善を研究する。

平成15年度の研究体制



平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・一人一人の生徒に目が届き、生徒の学習状況や理解度などを具体的に把握できた。
- ・個別指導の時間が確保でき、個にあった具体的で丁寧な支援が行えた。
- ・ゆとりある個別指導の中で学習の雰囲気づくりが進み、生徒の質問機会も増え、生徒と教師の人間関係づくりが一層進み、学習指導、生徒指導が効果的に行えた。
- ・数学：進んで質問をする生徒が増えた。

グループ活動では、全ての生徒が自分の考えを出し合えた。

- ・英語：英語の問いに文章で答えようとする生徒が増えた。

アンケートより

(生徒)(平成15年7月実施)

単位：%

「あなたはどの授業形態が一番よいと思いますか。」

	数学1年	数学3年	英語3年
一斉授業	13.8	10.8	2.7
ハーフサイズ	75.8	75.6	59.5
どちらとも言えない	10.4	13.6	37.8

「分かりにくいところを質問していますか。」

よく質問する	時々質問する	ほとんど質問しない
44.2	55.2	2.6

「基本問題は、自分でできますか。」

	1年生	2年生	3年生
ほぼできる	62.1	39.3	59.4
難しい時がある	37.9	60.7	40.6

(保護者)(平成15年11月実施)

単位：%

「1年生と3年生で、少人数授業を実施していることをご存じですか。」

よく知っている	少しは知っている	あまり知らない	全く知らない
43	52	5	2

「少人数授業によって、お子さんの学習意欲に変化はありましたか。」

やる気が出て好きになった	やる気が出た	わらない	その他
5	27	64	4

「お子さんの授業内容の理解に変化はありましたか。」

分かりやすくなった	あまり変わらない	その他
29.4	62.1	8.5

2. 今後の課題

学習意欲の向上をめざして

- ・生徒の自己評価と教師評価表を見直し、つまずきの早期発見と指導の充実を図る。
 - ・単元テスト後の、個別指導を充実させ学習習慣をさらに定着させる必要がある。
 - ・少人数授業やT・T指導を中心とした生徒への関わりを充実させる。
- 個に応じた指導の充実をめざして
- ・少人数授業の利点を生かし、学力を伸ばす学習形態や授業方法の工夫・研究を進める。
 - ・個々の生徒の学力を高めるため、より意欲的な学習集団の編成を工夫する。
 - ・様々な生徒のニーズに応えるため、教師自らの研修を深める。
 - ・少人数の取り組みの成果を全教科での取り組みに拡大する。

学力把握のための学校の取組について

- ・「NRT 標準テスト」を1年(国、数)、2年(国、数、英)実施し、生徒個々および学年の実態を把握・分析し、指導に生かしている。
- ・単元テスト実施時に達成状況等を把握・分析し、授業や個別指導に生かしている。
- ・少人数授業に関する生徒アンケートを実施し、成果と課題を分析検討している。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・校内授業研究会(平成15年6月11日)
郡内小・中の参加者とともに、数学と英語の授業研究をおこなった。
- ・中間発表会(平成15年11月28日)
西播地区の参加者とともに、個に応じた指導の充実を図るための研究協議をおこなった。
- ・学校参観日
少人数授業やT・Tの授業を公開し、保護者への啓蒙を図った。
- ・ホームページを作成し、学校の様子を知らせた。
- ・教育課程研究会(平成15年8月22日)
西播地区教育課程研究会において、実践研究を発表した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	